

# XEAD Driver インストール

関西IT勉強宴会(mini)

2013-10-31

# 概要

- OS: Windows 7 professional 32bit版
- Java SE Development Kit 7のダウンロードとインストール
- XEAD Driverのダウンロードとインストール
- StartDatabase.batの修正
- DB開始ショートカットの設定

# Java SE Development Kit 7の ダウンロード

**Java SE Development Kit 7 Downloads**  
<http://www.oracle.com/technetwork/jp/java/javase/downloads/jdk7-downloads-1880260.html>

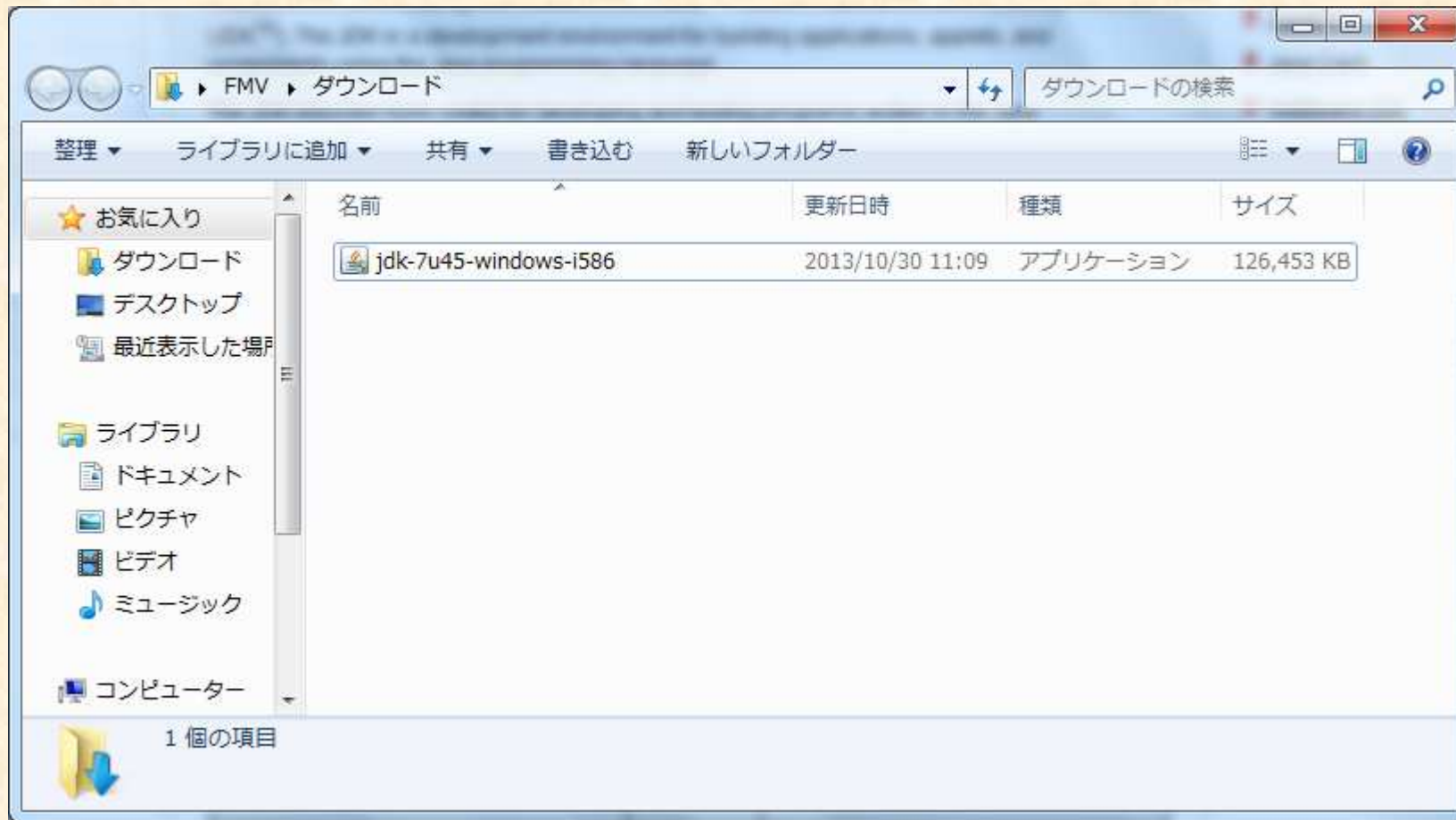
**Java SE Development Kit 7u45**  
You must accept the Oracle Binary Code License Agreement for Java SE to download this software.

Thank you for accepting the Oracle Binary Code License Agreement for Java SE; you may now download this software.

Product / File Description	File Size	Download
Solaris SPARC 64-bit	18.26 MB	<a href="#">jdk-7u45-solaris-sparcv9.tar.gz</a>
Windows x86	123.49 MB	<a href="#">jdk-7u45-windows-i586.exe</a>
Windows x64	125.31 MB	<a href="#">jdk-7u45-windows-x64.exe</a>

jdk-7u45-windows-i586.exeを  
選択

# ダウンロード完了



# Javaセットアップ 1

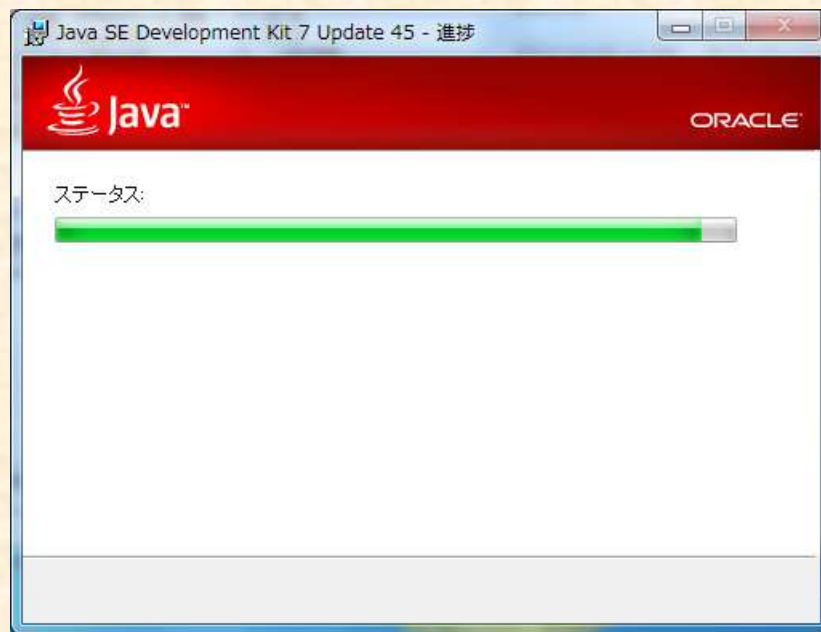


デフォルトインストール





# Javaセットアップ 2



# Javaセットアップ 3



# XEAD Driverの ダウンロード 1

動作環境

- Javaの実行環境(1.6.0\_1\*以上)が必要です。を確認できます。
- JavaDB (Javaの組込DBMSであるApache Derbyのこと)がインストールされている必要があります(\*1)。JavaDBの他にMySQLとPostgreSQLにも対応していますが、インストールされるサンプルシスがJavaDBで作成されているので、サンプルで動作確認するためにはJavaDBが必要です。

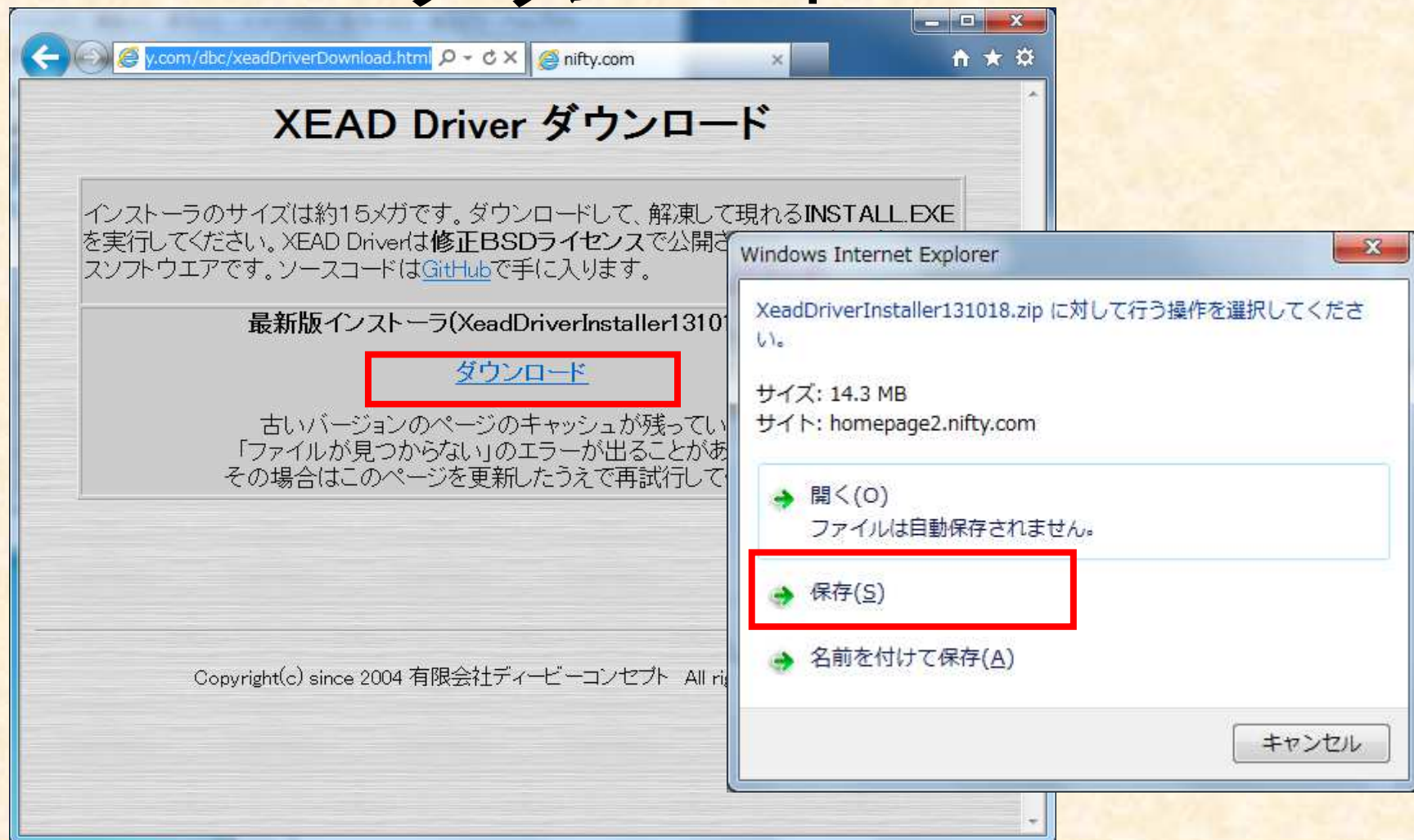
\*1お使いのコンピュータにJavaDBがインストールされているかどうかを確認するための手順は次のとおりです。JavaDBの実体は同名のフォルダで、既にインストールされているとすれば、多くの場合、C:\Program Files\Sun\JavaDBとして見つかります。これ以外の場所に見つかった場合は、XEAD Driverのインストール後に、インストールフォルダにあるStartDatabase.bat (XEAD Driver用のJavaDB起動ファイル)のpath指定を書き換えてください。いくら探しても見つからない場合は、JavaDBを新たにインストールする必要がありますが、インストールといっても簡単で、[http://db.apache.org/derby/derby\\_downloads.html](http://db.apache.org/derby/derby_downloads.html)から最新版のzipファイルをダウンロードして、適当な場所に解凍するだけです(解凍した場所に合わせて、StartDatabase.batのpath指定を書き換えてください)。

インストールと実行の手順

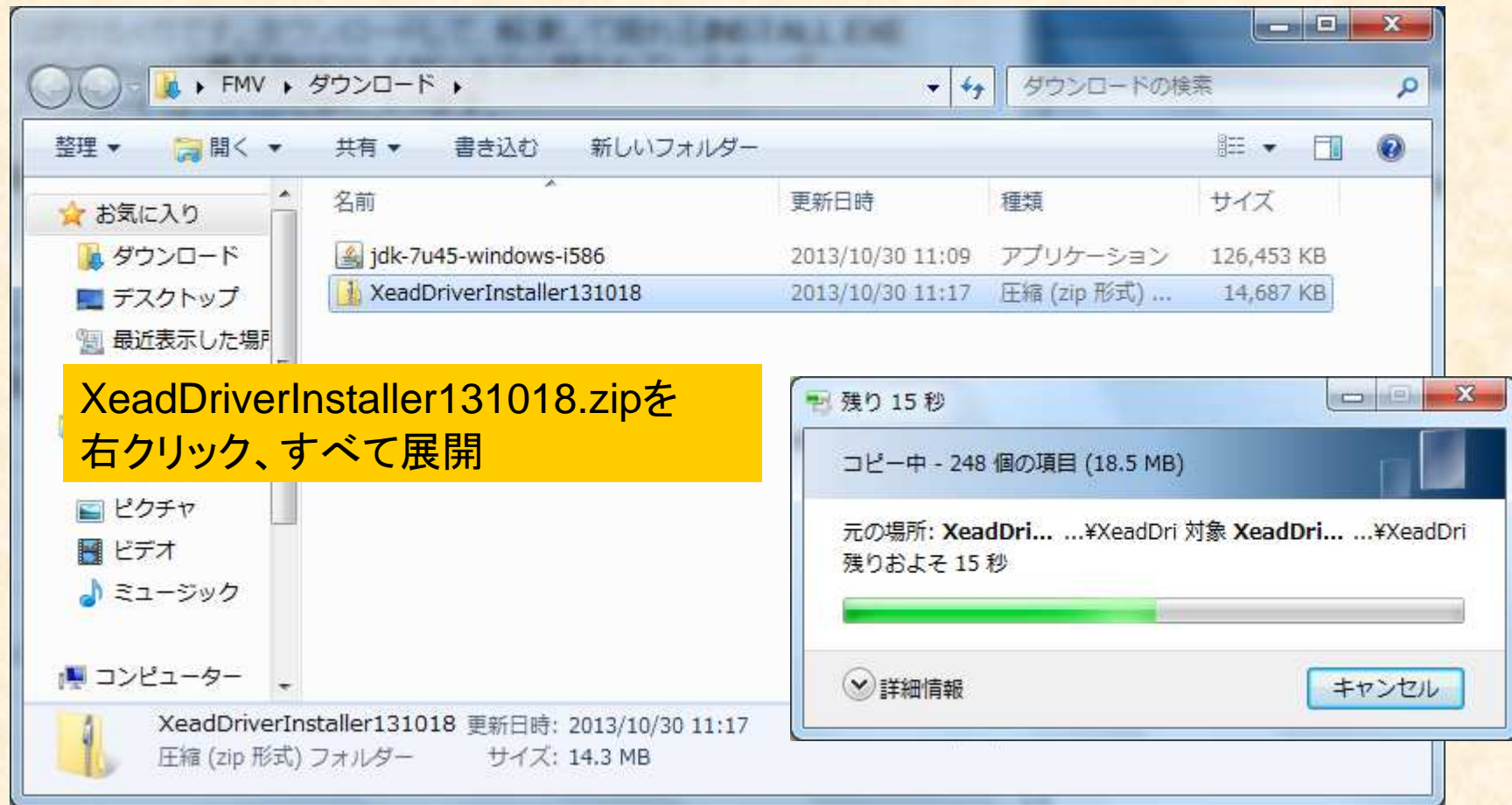
1. ダウンロード  
[インストーラ\(Win専用。Win8可\)](#)をダウンロードしてください。
2. 旧版のアンインストール  
古いXEAD Driverがインストールされているのであれば、これをアンインストールしてください。



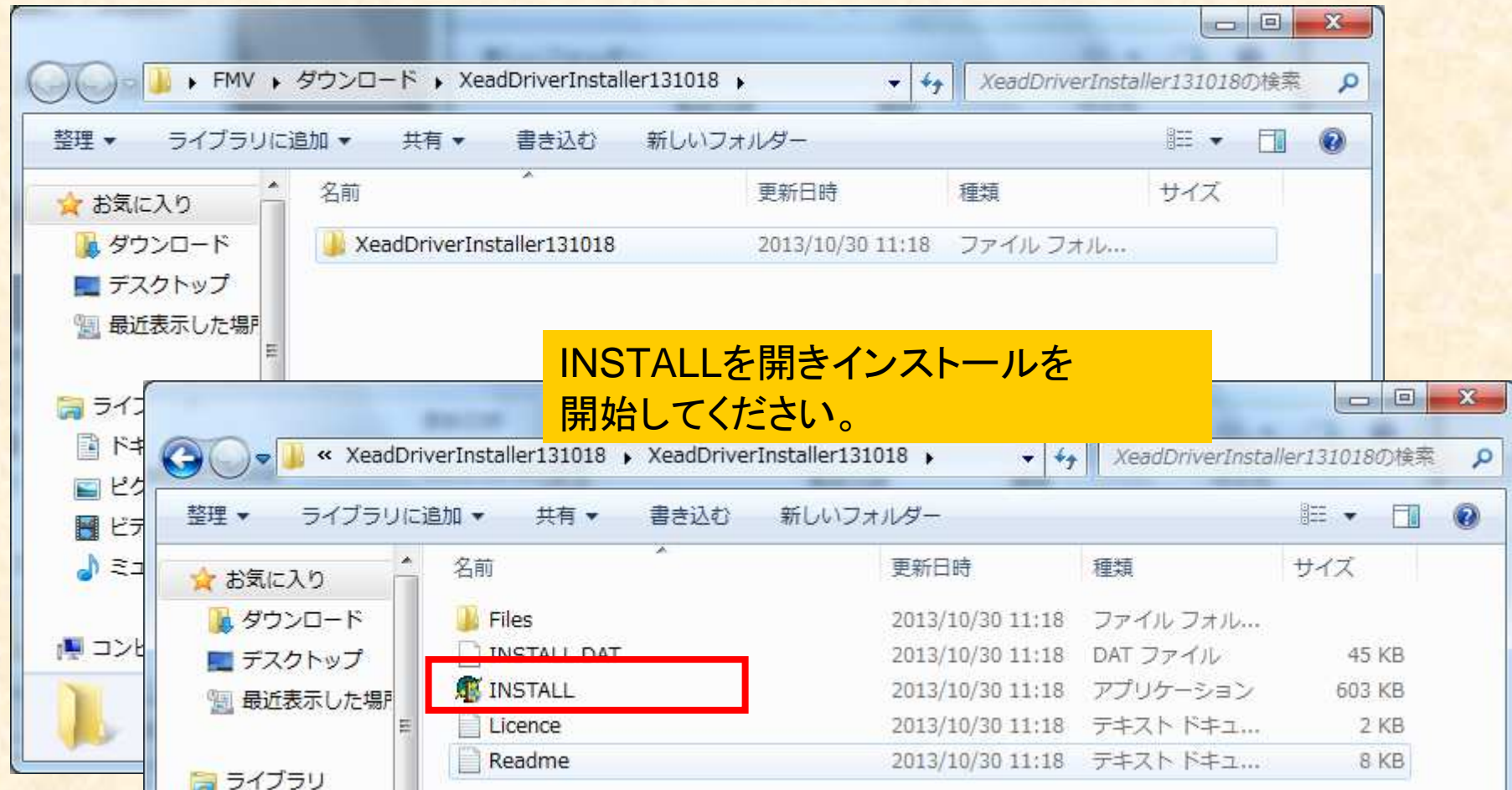
# XEAD Driverの ダウンロード 2



# ダウンロード完了

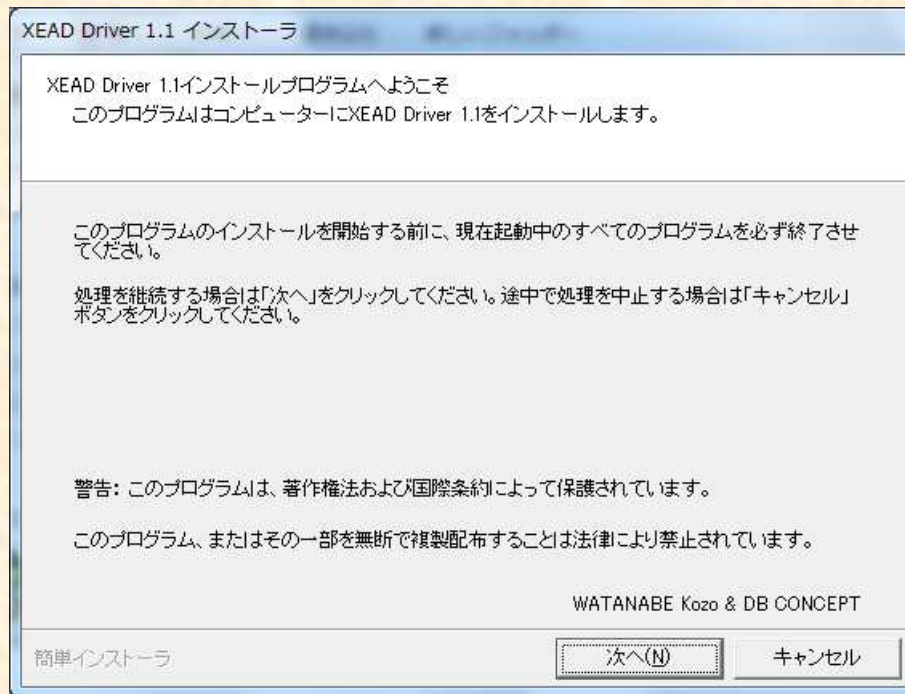


# 展開したファイル

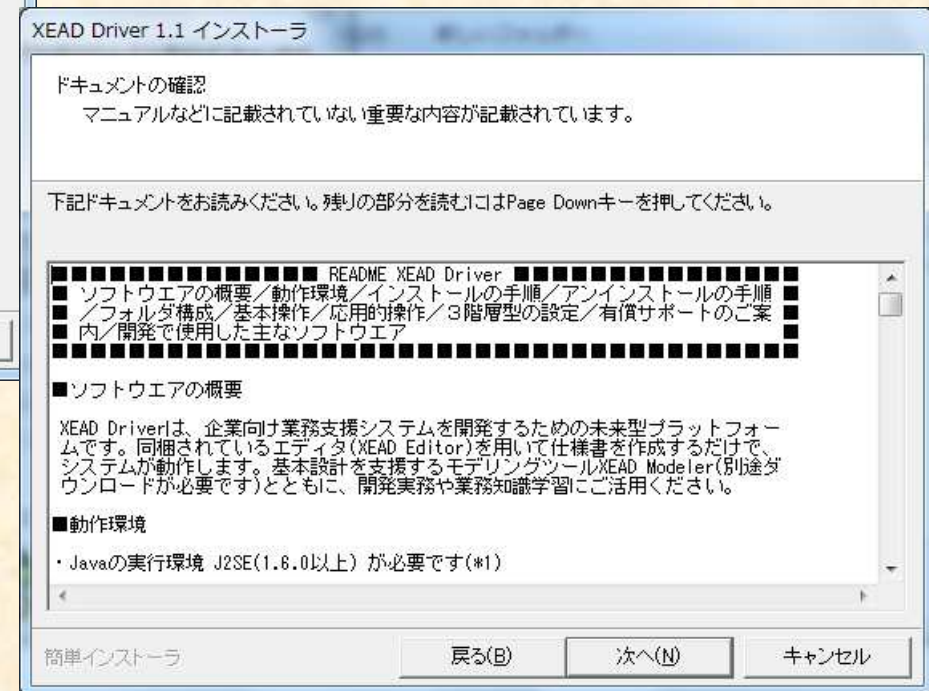




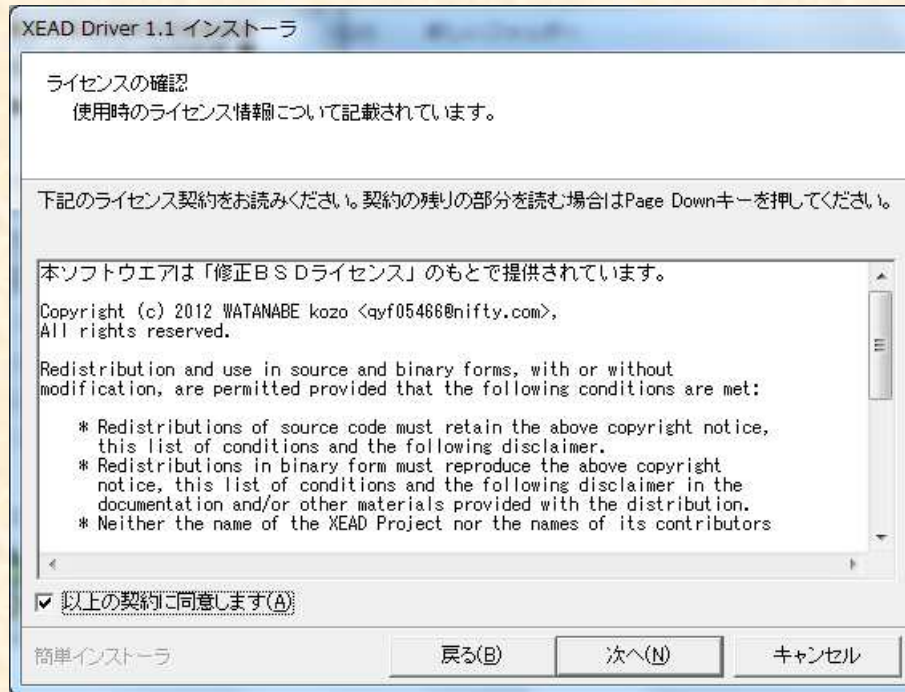
# XEAD Driverインストール 1



## デフォルトインストール

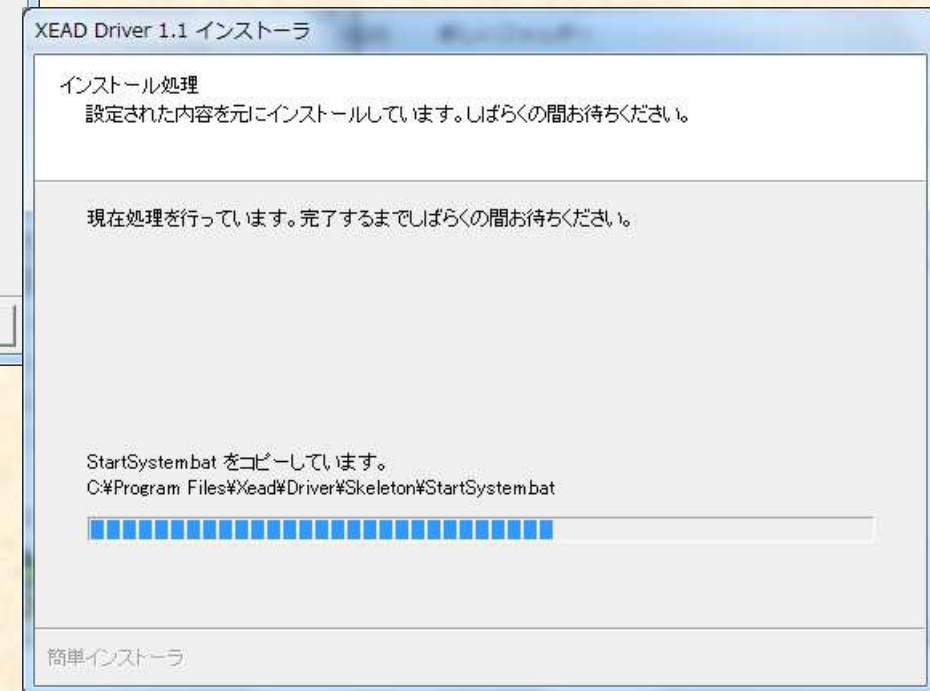
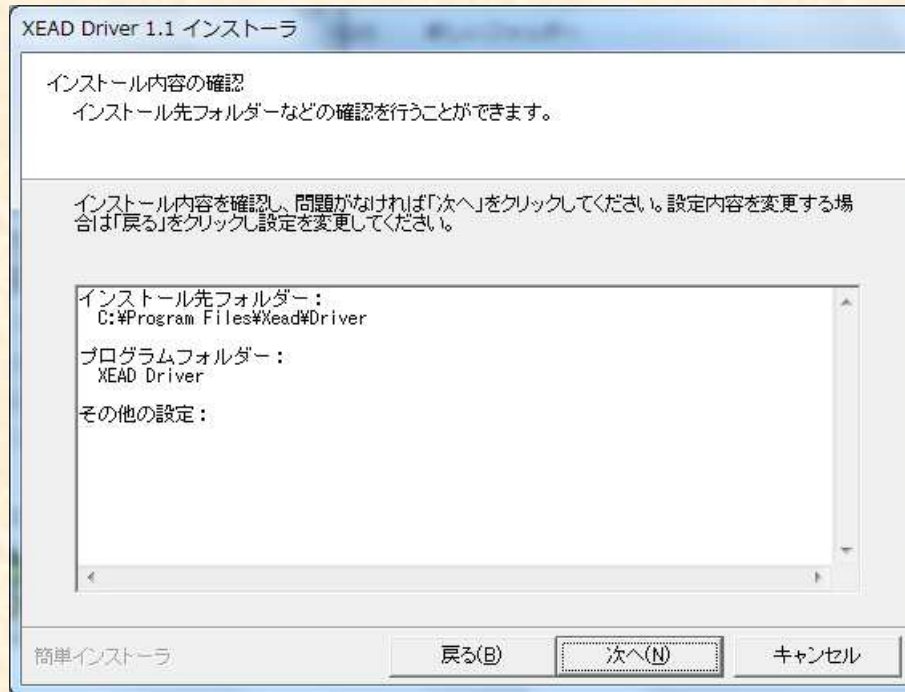


# XEAD Driverインストール 2

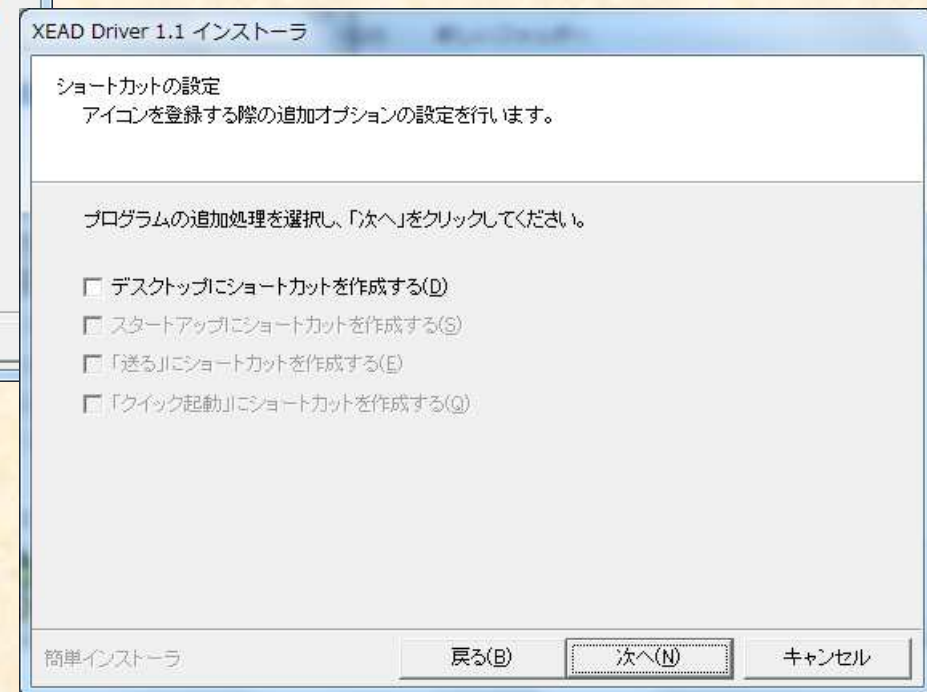
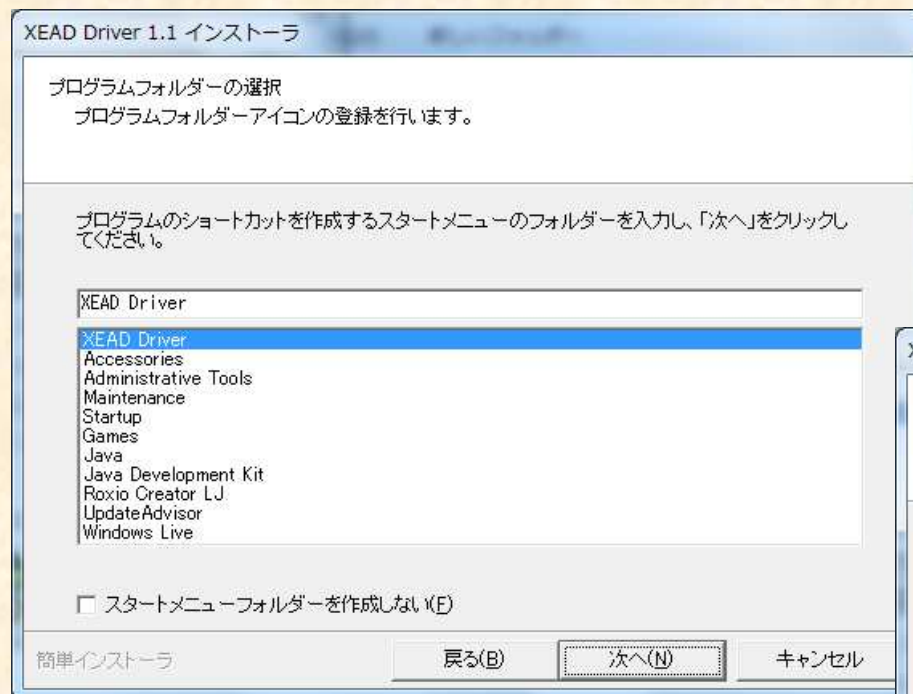




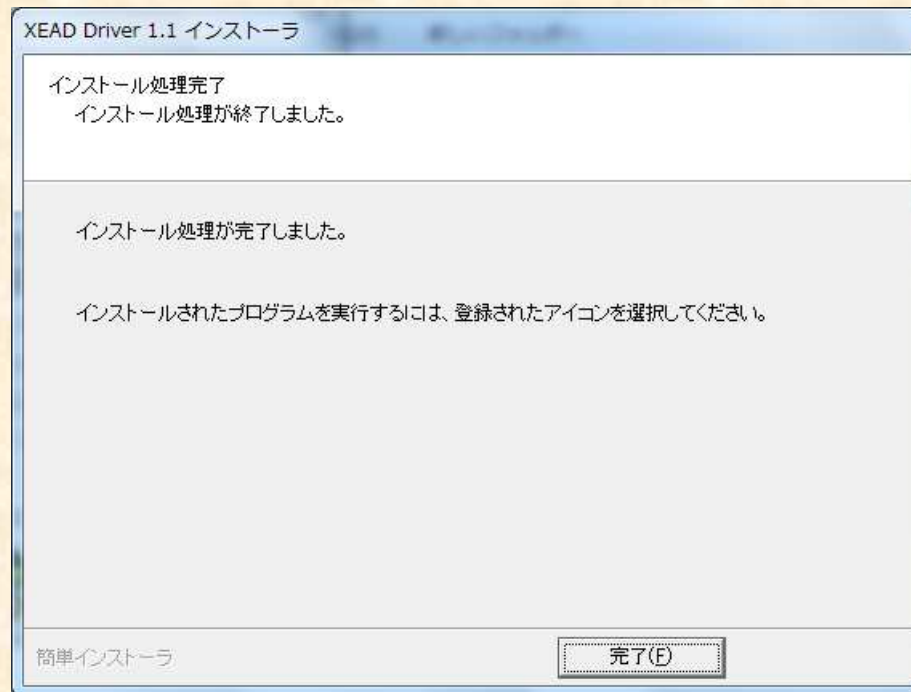
# XEAD Driverインストール 3



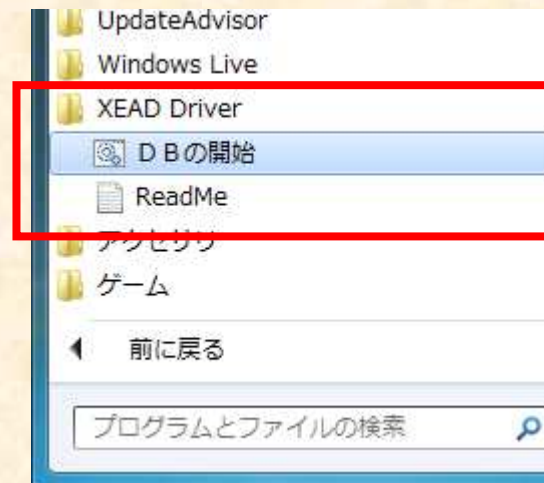
# XEAD Driverインストール 4



# XEAD Driverインストール 5

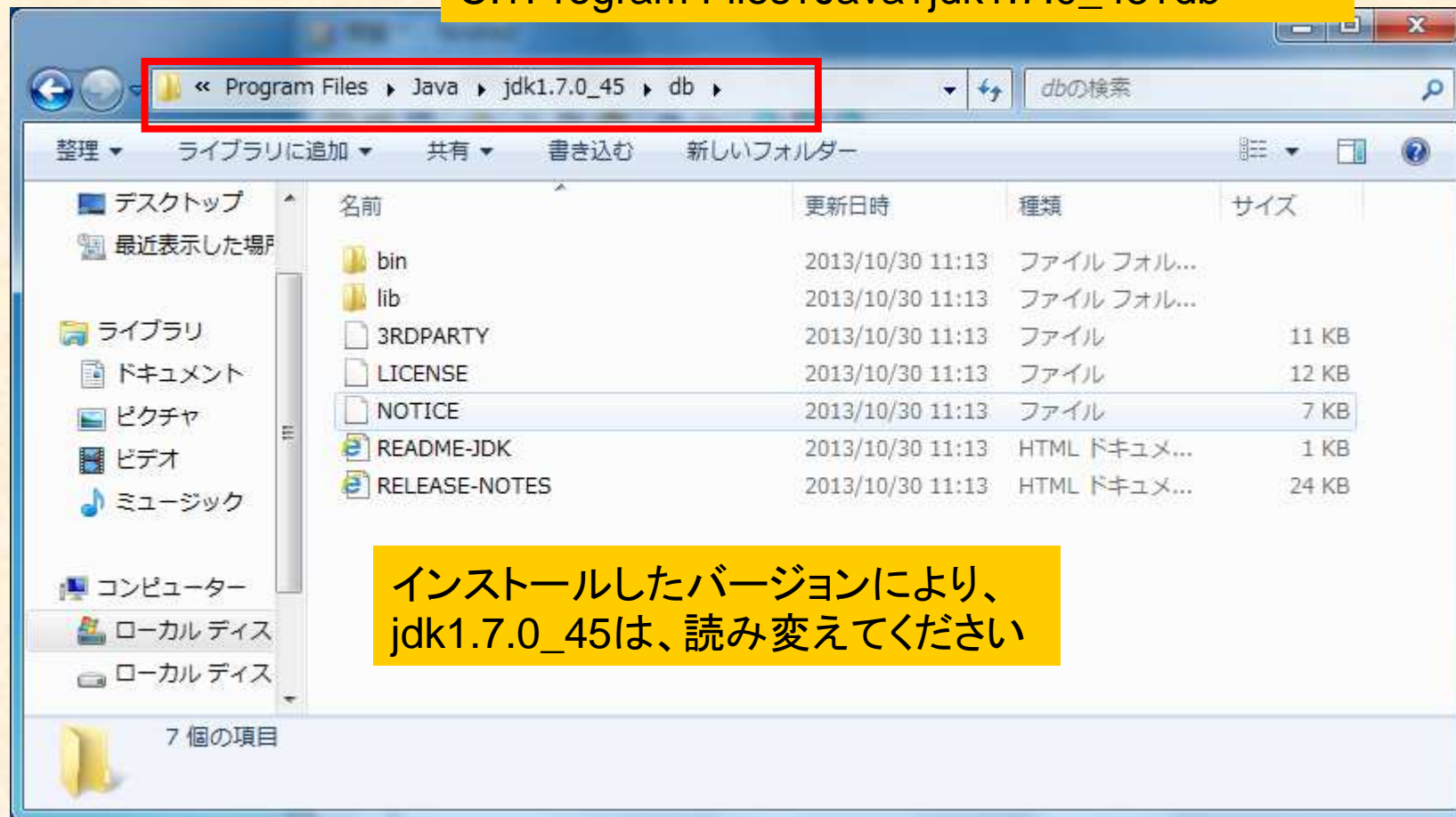


スタートメニューにXEAD Driverが登録されました



# JavaDBのインストールパス確認

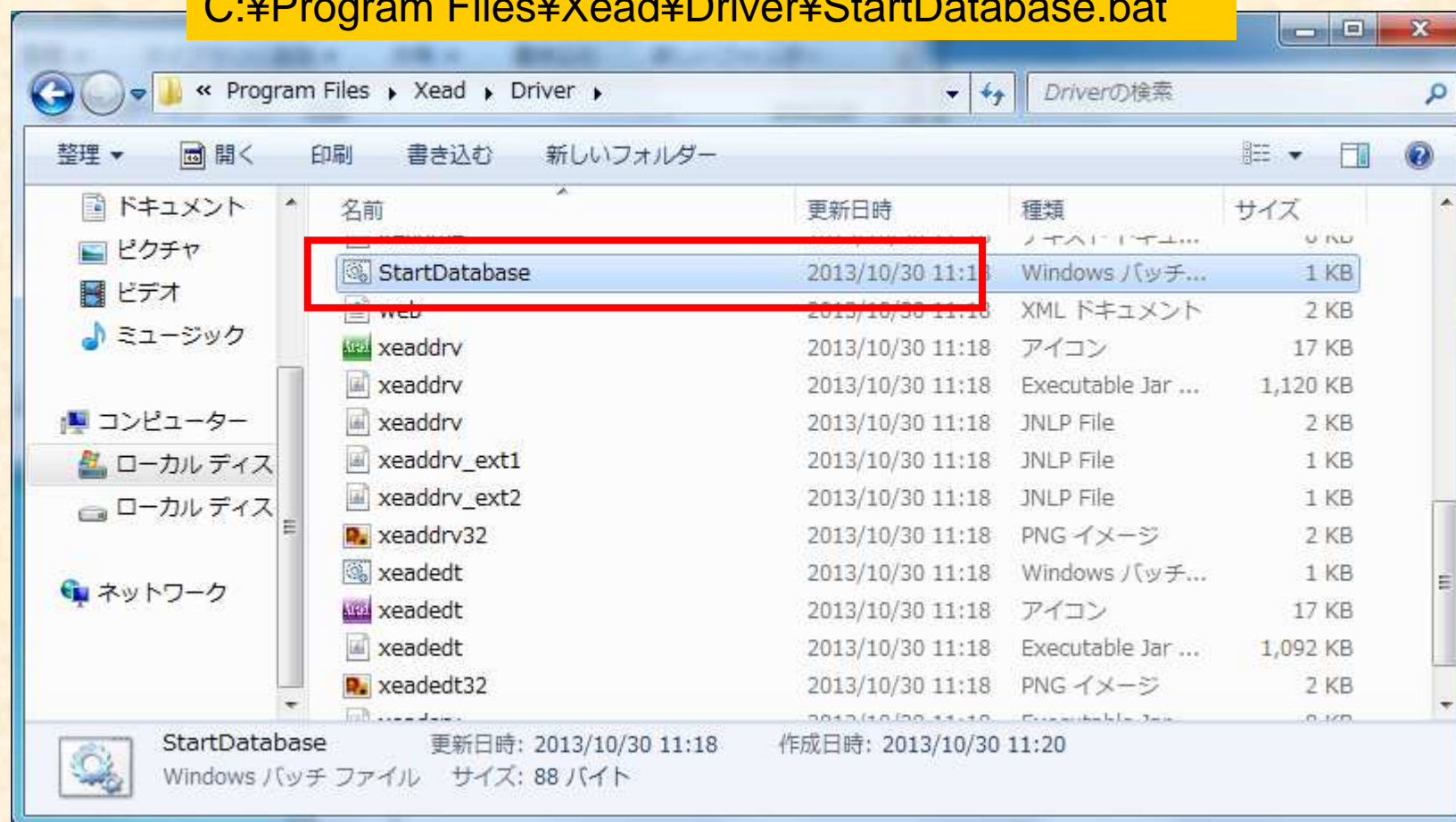
C:\Program Files\Java\jdk1.7.0\_45\db





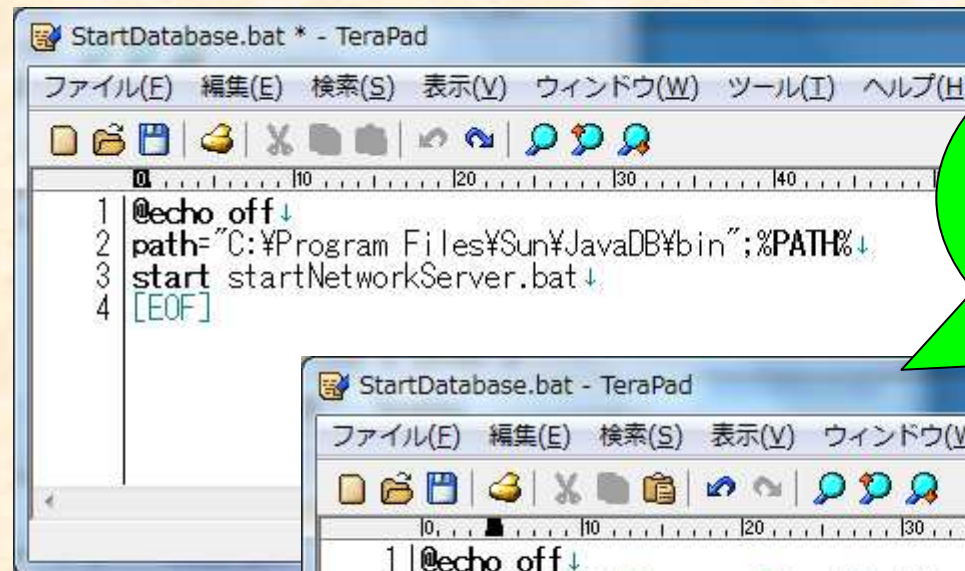
# XEAD Driverの StartDatabase.bat修正 1

C:¥Program Files¥Xead¥Driver¥StartDatabase.bat





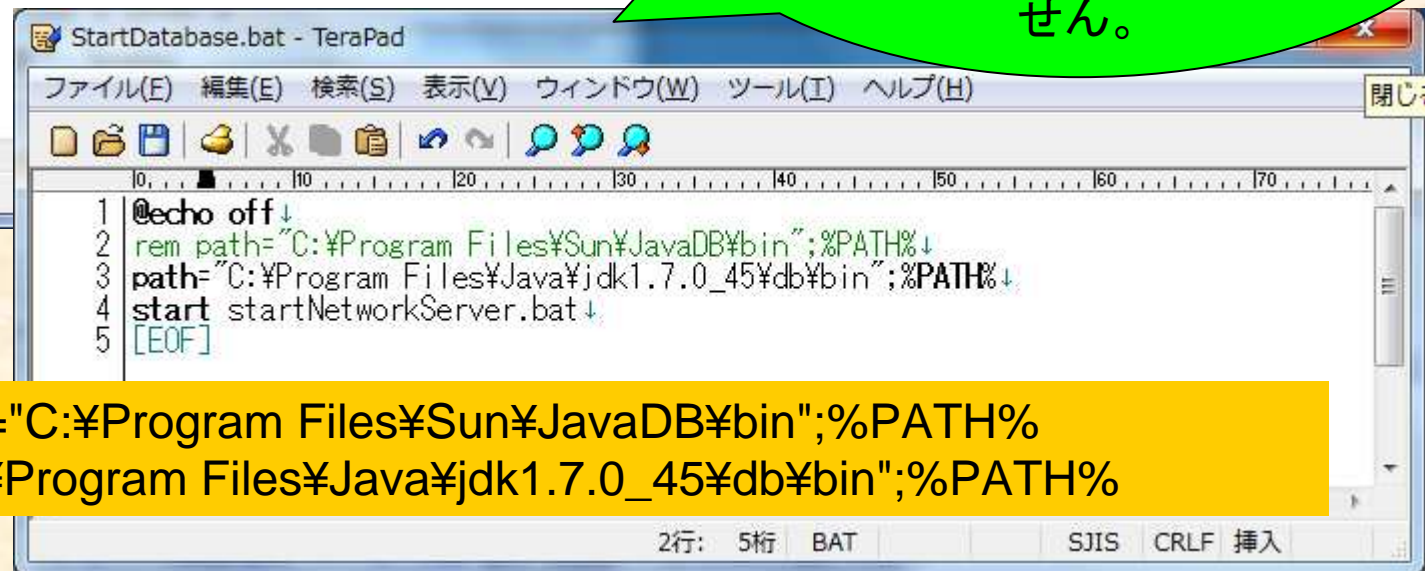
# XEAD Driverの StartDatabase.bat修正 2



This screenshot shows the original content of the StartDatabase.bat file. It is a simple batch script with four lines: an echo command to turn off output, a path assignment for Sun's Java DB bin directory, and a command to start the startNetworkServer.bat file.

```
1 @echo off↓
2 path="C:¥Program Files¥Sun¥JavaDB¥bin";%PATH%↓
3 start startNetworkServer.bat↓
4 [EOF]
```

2行目のパスをインストール  
状況に合わせ書き換えます。  
エディタは管理者権限で起  
動してください。  
通常の権限では変更されま  
せん。



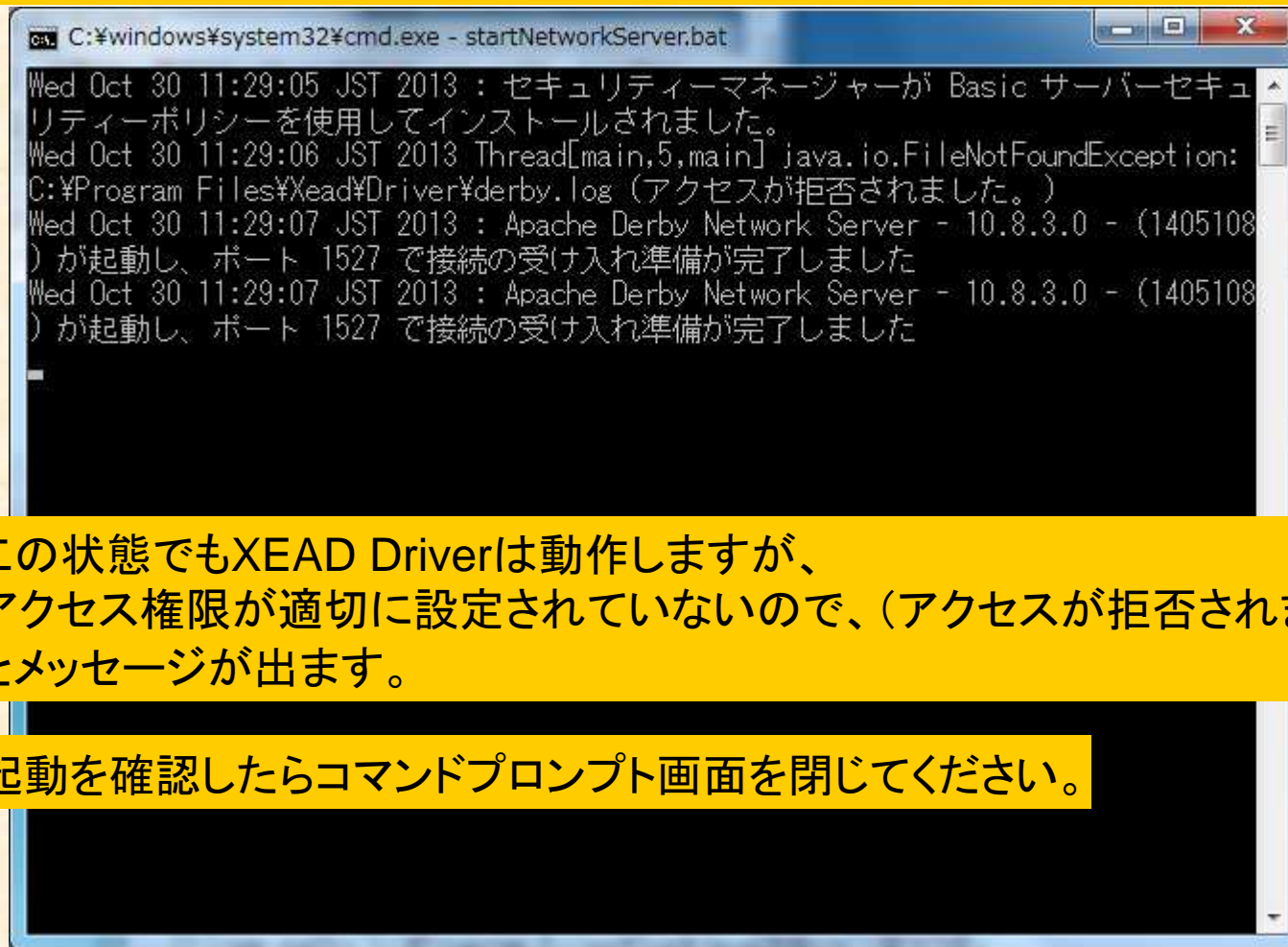
This screenshot shows the modified version of the StartDatabase.bat file. The second line has been replaced with a 'rem' (comment) line and a new path assignment for the Java JDK bin directory.

```
1 @echo off↓
2 rem path="C:¥Program Files¥Sun¥JavaDB¥bin";%PATH%↓
3 path="C:¥Program Files¥Java¥jdk1.7.0_45¥db¥bin";%PATH%↓
4 start startNetworkServer.bat↓
5 [EOF]
```

```
rem path="C:¥Program Files¥Sun¥JavaDB¥bin";%PATH%
path="C:¥Program Files¥Java¥jdk1.7.0_45¥db¥bin";%PATH%
```

# テスト起動

スタートメニューから、XEAD Driver → DBの開始をクリックしてください。



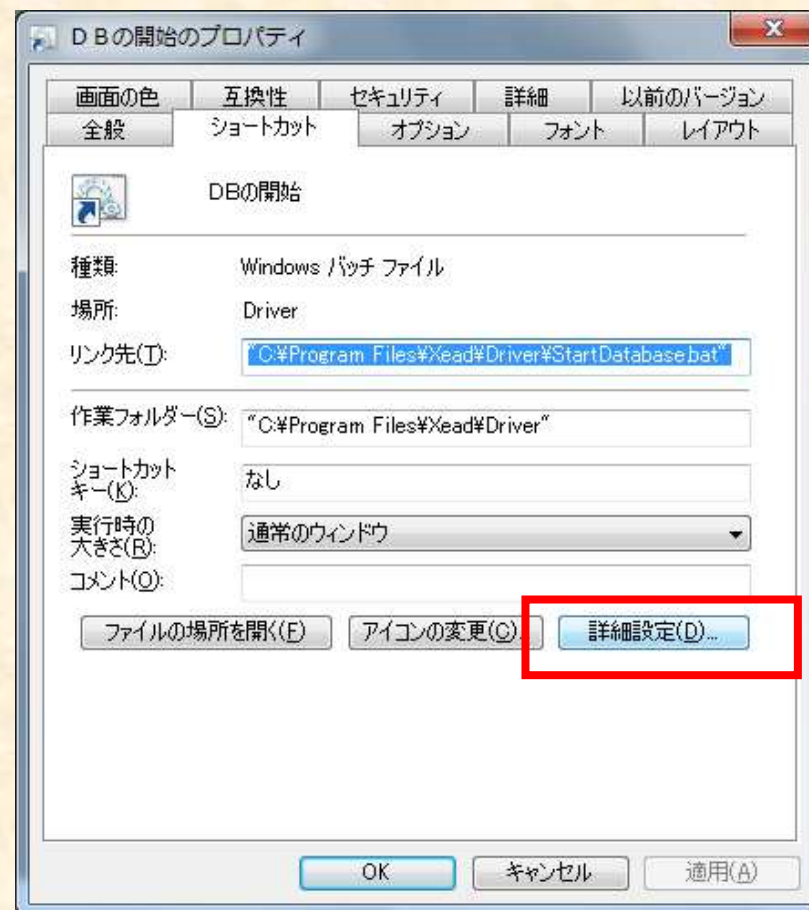
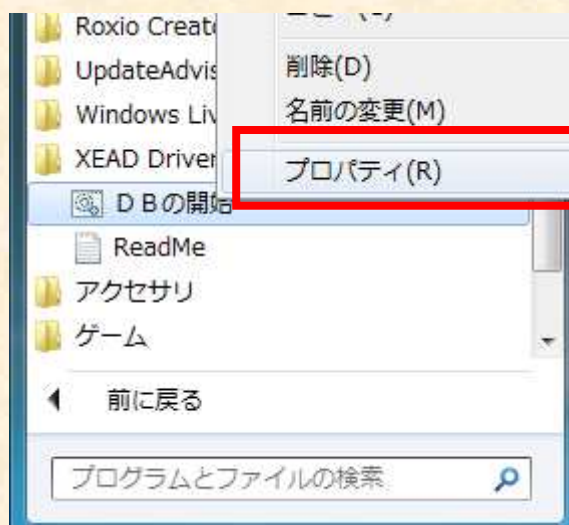
```
C:\windows\system32\cmd.exe - startNetworkServer.bat
Wed Oct 30 11:29:05 JST 2013 : セキュリティマネージャーが Basic サーバーセキュ
リティーポリシーを使用してインストールされました。
Wed Oct 30 11:29:06 JST 2013 Thread[main,5,main] java.io.FileNotFoundException:
C:\Program Files\Xead\Driver\derby.log (アクセスが拒否されました。)
Wed Oct 30 11:29:07 JST 2013 : Apache Derby Network Server - 10.8.3.0 - (1405108
) が起動し、ポート 1527 で接続の受け入れ準備が完了しました
Wed Oct 30 11:29:07 JST 2013 : Apache Derby Network Server - 10.8.3.0 - (1405108
) が起動し、ポート 1527 で接続の受け入れ準備が完了しました
```

この状態でもXEAD Driverは動作しますが、アクセス権限が適切に設定されていないので、(アクセスが拒否されました。)とメッセージが出ます。

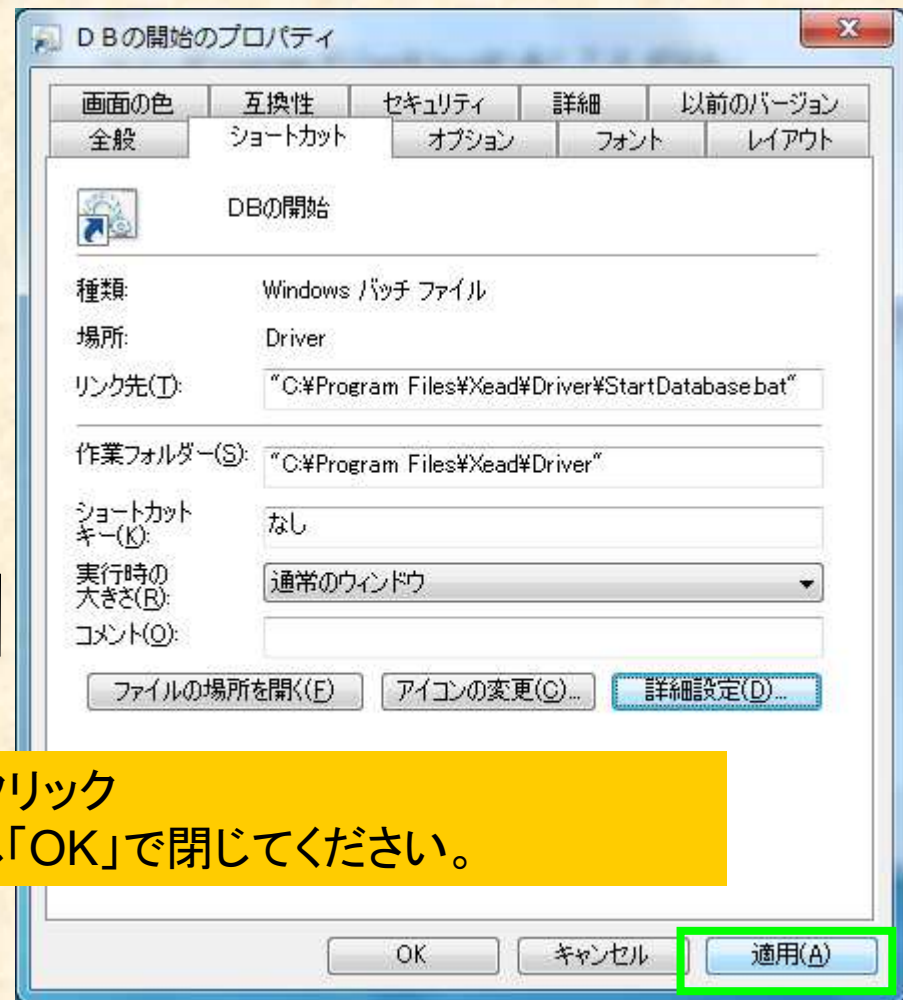
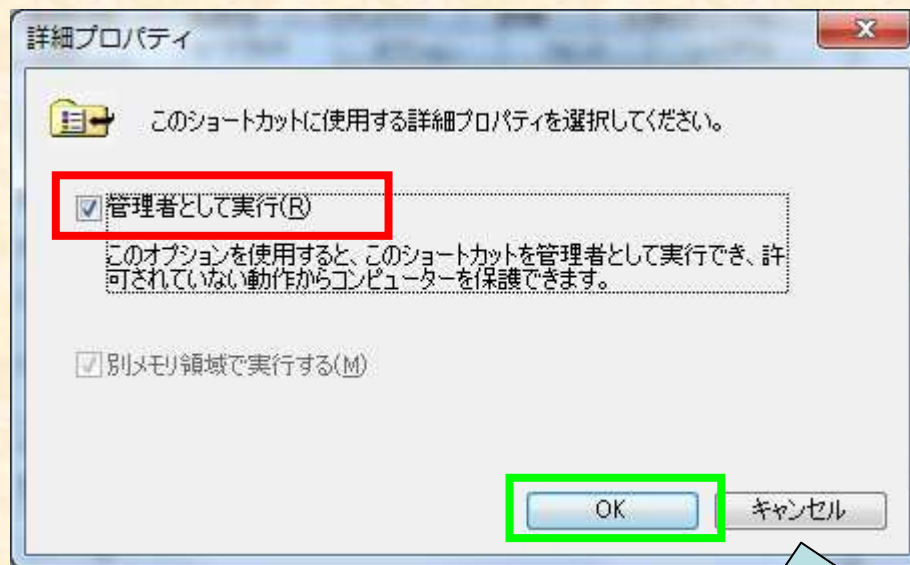
起動を確認したらコマンドプロンプト画面を閉じてください。

# DBの開始へ権限付与

スタートメニューから、XEAD Driver → DBの開始をポイントし  
右クリックで プロパティをクリックしてください。



# 管理者として実行



管理者として実行にチェックを入れ、「OK」クリック  
DBの開始のプロパティで「適用」をクリックし「OK」で閉じてください。



# JavaDB起動

スタートメニューから、XEAD Driver → DBの開始をクリックしてください。



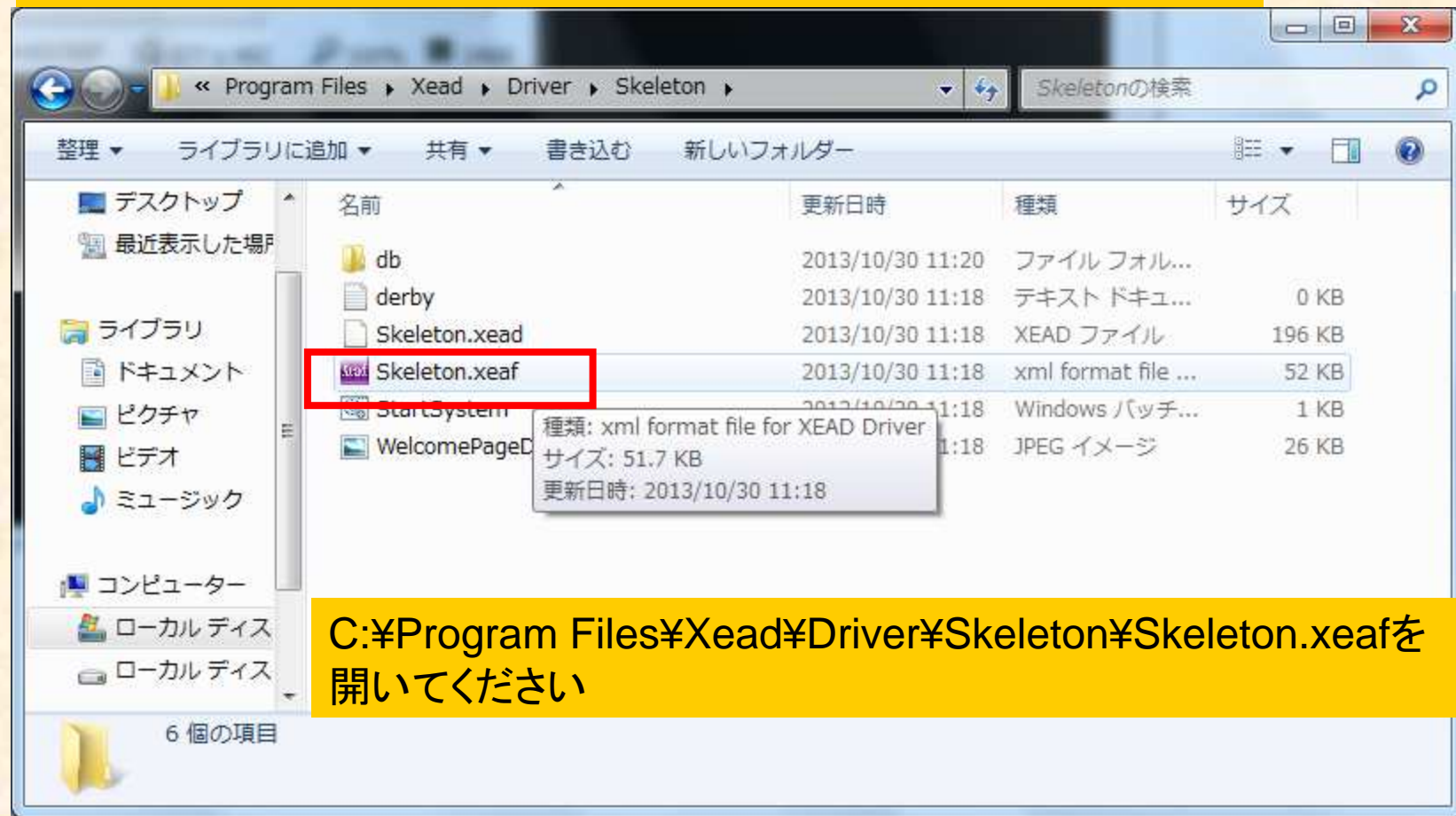
```
C:\¥windows¥system32¥cmd.exe - startNetworkServer.bat
Wed Oct 30 11:32:17 JST 2013 : セキュリティマネージャーが Basic サーバーセキュ
リティーポリシーを使用してインストールされました。
Wed Oct 30 11:32:17 JST 2013 : Apache Derby Network Server - 10.8.3.0 - (1405108
) が起動し、ポート 1527 で接続の受け入れ準備が完了しました
```

エラーメッセージ無く、起動します。



# XEAD Editorの起動 1

Skeletonは、システム構築のひな形となります。起動する前にフォルダごとコピーしておくことをおすすめします。

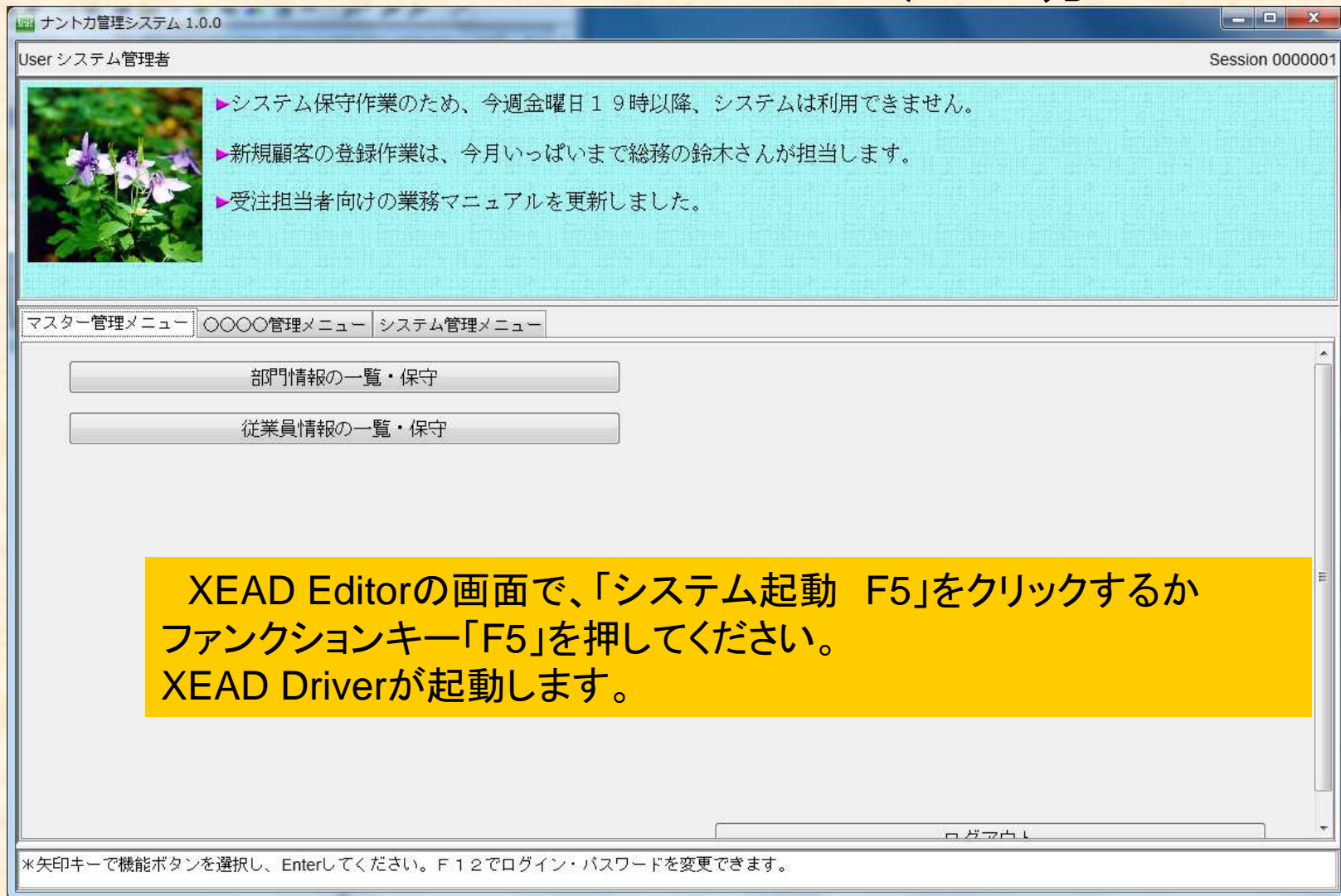


C:\Program Files\Xead\Driver\Skeleton\Skeleton.xeafを開いてください

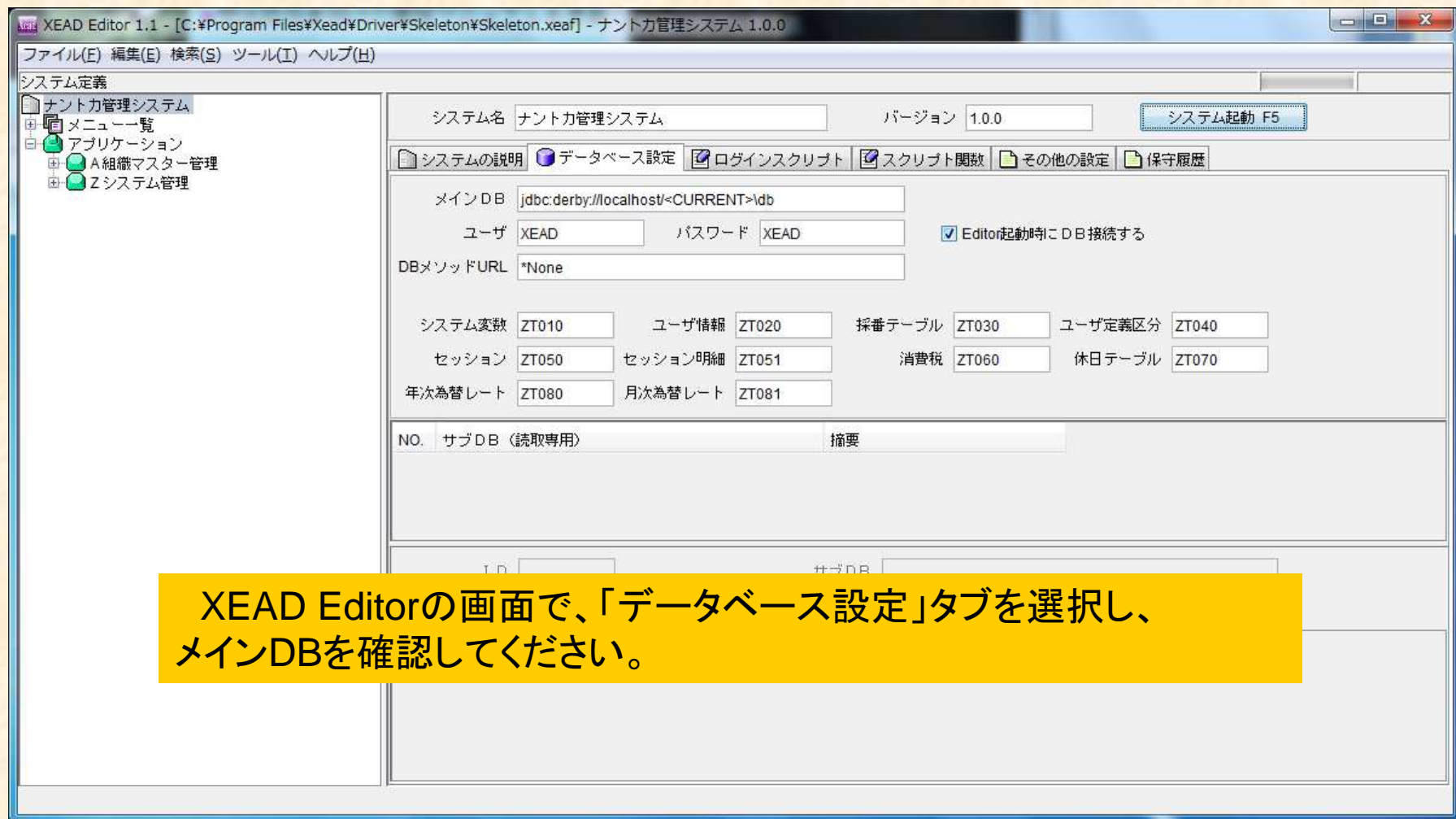
# XEAD Editorの起動 2



# XEAD Driverの起動



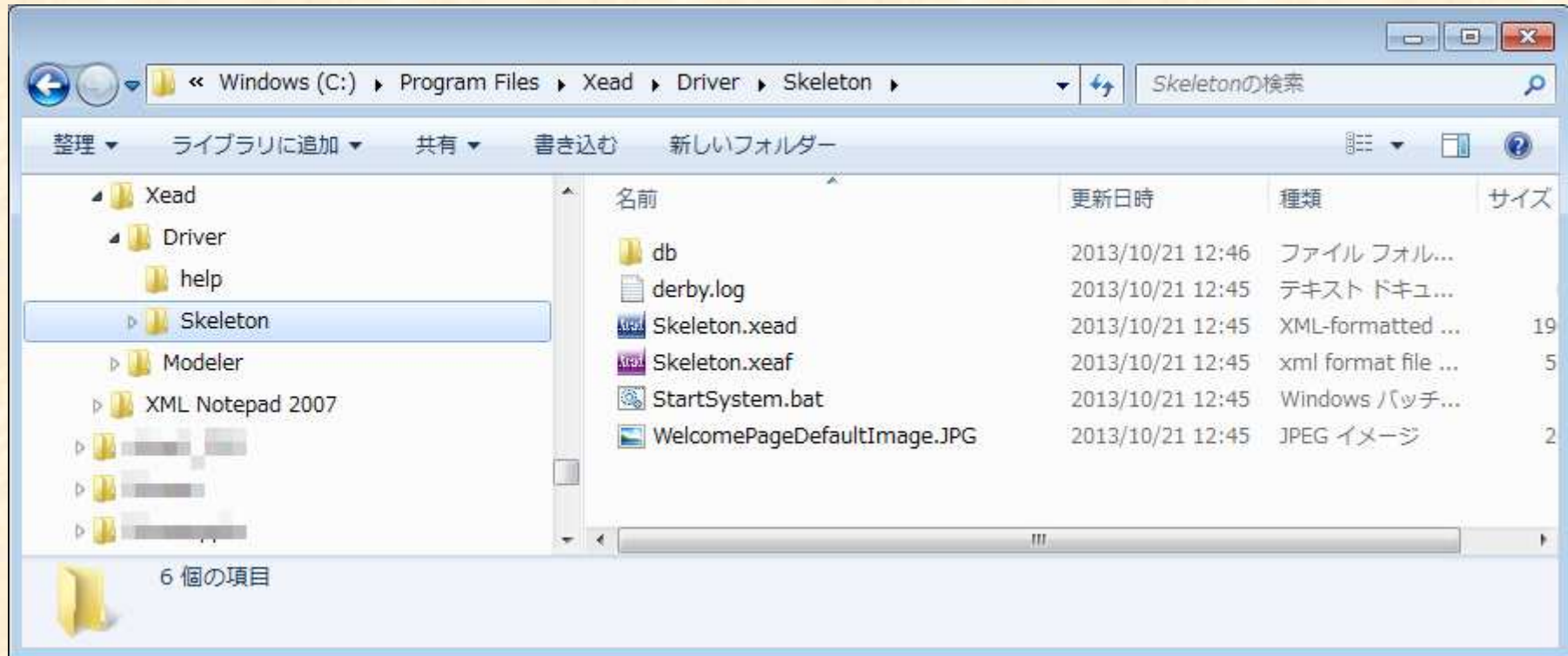
# メインDBの確認



XEAD Editorの画面で、「データベース設定」タブを選択し、メインDBを確認してください。



# JavaDBの場所



Skeletonシステムが参照している、JavaDBの場所は  
「C:¥Program Files¥Xead¥Driver¥Skeleton¥db」になります。



# 参考資料

- JavaDBのテーブルをPostgreSQLに移行する手順  
[https://github.com/kurokouji/pgMfgDscrt/blob/master/20131007\\_XEAD-PostgreSQL.pdf?raw=true](https://github.com/kurokouji/pgMfgDscrt/blob/master/20131007_XEAD-PostgreSQL.pdf?raw=true)
- XEAD Drvier の使い方(参照・親子・派生関係)  
<https://github.com/kurokouji/pgMfgDscrt/blob/master/XEAD%20Drvier%20%E3%82%92%E4%BD%BF%E3%81%84%E5%80%92%E3%81%9D%E3%81%86.pdf?raw=true>